

## 令和2年度 第1回 宇都宮市総合教育会議 議事録

- 1 日時 令和2年9月28日(月) 午後3時50分～午後4時50分
- 2 場所 宇都宮市役所13階 教育委員室
- 3 出席者  
(構成員) 佐藤市長  
小堀教育長, 伊藤一委員, 清島委員, 伊藤三千代委員, 大森委員  
(事務局) 教育次長, 学校教育担当次長, 教育企画課長, 総務担当主幹  
学校管理課長, 学校教育課長, 教育センター所長
- 4 傍聴者 2名
- 5 議題 コロナ禍の影響に伴うGIGAスクール構想の加速化について
- 6 議事の内容

### (1) 開会

青木教育次長

ただいまから、令和2年度第1回宇都宮市総合教育会議を開会いたします。本日の会議の進行を務めさせていただきます。教育次長の青木でございます。よろしくお願いいたします。

### (2) あいさつ

青木教育次長

はじめに、佐藤市長からごあいさつをお願いいたします。

佐藤市長あいさつ

青木教育次長

ありがとうございました。  
続きまして、小堀教育長からごあいさつをお願いいたします。

小堀教育長あいさつ

青木教育次長

ありがとうございました。  
ここからの議事の進行については、市長にお願いしたいと思います。  
佐藤市長、よろしくお願いいたします。

### (3) 議事

佐藤市長

今回は、「コロナ禍の影響に伴うGIGAスクール構想の加速化について」をテーマに意見交換を進めてまいりたいと思います。

まずは、GIGAスクール構想の実現に向けた本市学校現場におけるICT環境整備状況や、実現イメージ等につきまして、教育委員会から説明をいただいた上で、意見交換を行いたいと思います。

それでは、事務局から説明をお願いします。

ICT環境整備状況について(学校管理課説明)

実現イメージ等について（教育センター・学校教育課）

まなびポケット等の操作体験

佐藤市長

ありがとうございました。

それでは、教育委員の皆さまからICTを活用した今後の学校教育等にかかる取組の方向性や、ICTを活用した学びの保障についての考えなどについて、それぞれご意見をいただきたいと思えます。

伊藤一委員

1人1台の端末が整備されることは非常にありがたいことだと感じました。私は小学生時代に遠慮がちな性格であったため、学校にピアノがあっても触れることができず、他の積極的な子どもたちがピアノに触れ、親しんでいましたので、こうして自分専用の端末があることは非常に有効であると思えました。

教科学習においては、先ほど操作をしましたオンライン学習教材「eboard」などを活用することで、解説を見て内容を理解し、問題を解いて学習を進めることが一種のゲーム感覚でできるようになるでしょう。このようなソフトが提供された時に、保護者も一緒に使用し、子ども達とともに時間を共有することが重要なことだと思います。昨今の子ども達の多くは、自由な時間などはゲームをすることに費やしており、今は戦闘型のシューティングゲームが人気だと聞いたことがあります。

学習においてもある程度ゲーム性を持ちながら、勉強を進める中で学習内容が定着し、自分が発展している喜びを感じることができれば、ICT機器の活用はとても有効に働くと思えます。まだまだ工夫の余地はあると思えますが、教職員もまずは機器に慣れ、子ども達にも積極的に機器を使用した授業を実施していただけるようにすることが、大切なことであると考えています。

清島委員

伊藤一委員がおっしゃったように、私もオンライン学習教材「eboard」はゲーム性の高いソフトであると思えました。このようなICT教材を活用することで危惧することもあります。子ども達にはタブレット端末やスマートフォンを使用して学習することができることなど、正しい使い方を早い段階から教えることができれば、ネットでのいじめなども少なくなるのではないかと感じています。1人1台端末の早急な整備は、子ども達のためになり、非常にありがたいことだと思っています。

これまでの対面による授業に加え、GIGAスクール構想の考え方に基づいた、端末を活用した個別最適化された学びが実現されることを期待しています。

一方でGIGAスクール構想の最終段階までいきますと、ICTを活用した学習に頼りすぎてしまう印象もあります。学びのハイブリット化を図ることで、教職員と児童生徒の対面による繋がりを残していただき、引き続き学校が協働性や社会性を育む場としての教育を推進していただきたい

と考えています。

伊藤三千代委員

先ほど操作させていただいた、「まなびポケット」のチャンネル機能やオンライン学習教材は、私自身も非常に楽しく操作をさせていただきました。子ども達も非常に興味を持って楽しみながら、学習を進めることができるのではないかと思います。

当初は、令和5年度までの4年間で学年ごとに順次、児童生徒1人1台端末の整備を実施する計画でしたが、今回のGIGAスクール構想の加速化に伴って、一斉に端末を活用できるようになることは非常に素晴らしい取組だと思いました。

また今般のコロナ禍における、学校現場の先生方の柔軟な対応や、学校経営など様々な面において素早く対応していただいたことにはとても感謝しています。臨時休業期間の当初は、「まなびポケット」などのコミュニケーションツールはありませんでしたが、先生方は子ども達との繋がりを保とうと懸命に努力をされており、先生方の人間力を感じることができました。学校を経営していく中で教職員と児童生徒の繋がりは、一番重要なものであると考えています。学校は子ども達の人間性を育む場であり、教職員は子ども達の人間形成をする大切な役割を担っていますので、こうしたICT機器をうまく活用しながら、未来社会の担い手となる子ども達を育てほしいと思います。

大森委員

これまで以上に、児童生徒の学びの軌跡が質的に管理でき、個々の学習進度や理解に応じた指導を学校現場で行うことができるようになってきていると感じています。現在は、教室の中で教職員が机間巡視をしながら個々の学習の進捗状況を把握していると思いますが、今回、1人1台端末が整備されることで、教職員の手元で一元管理ができるようになり、より一層個別最適化された学びを推進することができるようになると思います。宿題や課題などについてもそれぞれの児童生徒に応じて提供することが可能となるでしょう。

一方で現在、大学においてもオンライン授業を導入している中で、いわゆる眼精疲労などのVDT症候群が、生徒たちの中にもかなり多く見受けられることから、児童生徒にも健康面から何らかの支援が必要だと考えています。上海の学校では、休み時間に子どもたちが一斉に、目の体操をしていると留学生から聞きましたので、そのような児童生徒の健康に配慮した対応も必要になってくると思います。

またSNSなどの情報モラルが問題となっていますので、端末を整備すると同時に、ITリテラシーの教育も学校現場で進めていくことが重要だと考えています。

小堀教育長

1人1台端末の整備につきましては、予算化をしていただき、現在、導入に向けて準備を進めているところであります。今後は43,000台の1人1台端末が、宝の持ち腐れとならないよう、いかに活用していくかを

考えていくことが非常に重要であると考えています。先ほど学校教育課長や教育センター所長が、今後の活用方法について説明をしておりましたが、実際に学校現場で活用するとなると、教職員の負担も大きいと思いますので研修等も充実させながら、1人1台端末が有効に活用できるようにしていきたいと考えています。併せまして教育委員会としましては、1人1台端末を有効に活用するための体制を整備してまいりたいと思います。国におきましては、「ICT支援員」の配置を謳っておりますので、是非、市長にはご支援をいただきたいと考えております。

佐藤市長

皆様から様々な意見をいただき、ありがとうございます。

昨今は、私たちが子どもであった時代には考えられなかったような対応を進めていく必要があります、そこには様々な功罪も生じてくると思います。ICTの活用に限らず、新しいものを取り入れていきますと利点ばかりではなく必ず弊害も生じてきます。特に教育現場においては、弊害について修復をしながら活用していくことを常に考えていかなければならないと感じています。令和3年3月までに教職員を含めて約43,000台の端末を整備することは、非常に大変なことではあると思いますが、児童生徒全員に届くように着実に準備を進めていただきたいと思います。

学校教育現場におきまして、ICT活用を積極的に進めているように、学校教育現場以外でも、ICTの活用を推進しているところであります。宇都宮市は、「スマートシティ」として国から認定されており、全国的にも取組の先頭を走っているところです。昨年、ベトナムで行われたアジアフォーラムでも本市の取組を発表しましたが、スマートシティの実現に向けて様々な取組を推進しています。

まず、地域内交通については、市民の皆様から大変好評をいただいております、今後本数を増やしていきたいと考えておりますが、運転手が不足しているという課題があります。そこで人手不足の解消策として今後は、AI等を活用し自動運転化を実現することで、市民の皆様が待ち時間なく利用できるようにしていきたいと考えています。また、Wi-Fi環境整備につきましても、順次宇都宮市全域に配備していきたいと考えていますが、まずはLRTの停車駅ごとに5G対応のWi-Fiを配備していく予定です。さらに二荒山神社や大谷にも配備し、その後徐々にバス停などへの整備も進め、観光客だけではなく市民の皆様が自由に接続できるようにしていきたいと考えています。

さらに、エネルギーにつきましても、地球温暖化による夏冬の寒暖差や電気自動車の普及が見込まれる中、本市においても令和3年度以降には小中学校においても体育館の空調設備を整備するなど、電気の使用量が今後さらに増えることが見込まれます。日本では電気を作るエネルギー源を石油や石炭など輸入に頼っていますが、特にエネルギーの全体の4割を賄っている石炭については、地球温暖化がもたらす台風などの水害の原因となっていることから、先進国からその使用について批判をされているところです。宇都宮市としましては、資源の有効活用を図るため、クリーンパー

ク茂原におけるごみの焼却熱を電気に変えたり、下水処理施設においても汚泥から出るメタンガスから、水素を抽出し酸素と結びつけ、電気を発生させています。2つの施設で発電している電気のうち、年間約7億円を売電しているところです。今後は、今年度中に宇都宮市で地域電力会社を設立しまして、そこで電気の買い取りを実施し、LRTの電力や地区市民センターなど公共施設の電力を賄う予定です。ご自宅でも太陽光発電を利用し、買い取り制度を活用している方もいらっしゃると思いますが、民間の電力会社による買い取り制度終了後には、入札等を経ることになるとと思いますが、地域電力会社においても新たに買い取り制度に参画したいと考えています。宇都宮市の電気の再分配を進めていきまして、朝や夜は家庭を中心に、昼間は工場や公共施設などを中心に電気を供給し、エネルギーの地産地消に向けた取組を推進していく予定です。

10年前を振り返りますと、こうした新たな取組については徐々に取り入れていき、活用していくことを考えておりましたが、今後は積極的に取り入れていき、問題が生じた時にはその都度修復しながら、軌道修正し、より良い活用方法を模索していくことで社会や環境の変化に対応していきたいと考えています。

伊藤一委員

ICT機器は不登校の児童生徒の支援に対しても、有効に活用できると思います。登校しないことで不安を抱える子ども達も多いと思いますが、ICT機器を活用することで、教職員との関わりや、授業に追いついていることを実感することができ、学級にも戻りやすくなるのではないかと考えます。不登校対策は長年の課題でもありますので、解消に向け効果的に活用できるのではないかと期待しています。しかしながら、指導する側である、教職員のICT活用能力が十分ではないと効果的に使用することもできないと思いますので、ICT機器の導入期に支援を手厚く実施する必要があると考えています。

佐藤市長

子ども達が端末を家庭に持ち帰ることは可能でしょうか。

学校管理課長

持ち帰れるよう検討中です。

佐藤市長

現在、家庭でインターネットに接続できない環境にある児童生徒についても、今後、端末の持ち帰りができることで、全ての子ども達が学校のみならず家庭でもICT機器を使用できる環境を保障し、また、先ほど伊藤一委員がおっしゃったように不登校の児童生徒の支援に対しても活用できることが望ましいと考えています。

伊藤三千代委員

ICT機器を積極的に活用することに不安を持っている教職員もいると思います。どの教職員もICT機器を活用した授業が同じ水準で実施でき、子ども達にとって個別最適化された学びが実現できるよう、支援をしていただきたいと考えています。

佐藤市長

G I G Aスクール構想に対する学校現場の教職員の受け止め方や、反応はいかがでしょうか。導入期から円滑に端末を活用することはできるでしょうか。

学校教育課長

特に40代や50代の教職員は不安に思っている人が多いと思いますが、今年度末に指導事例を作成し、教科指導における活用の仕方について示していく予定です。まずは、全ての教育活動ではなく自分が得意な教科で最初は10分でも良いので、端末を使えるよう初歩的な段階をイメージした事例を作成する予定です。しかしながら、それだけでは不安が残るため、先ほど教育長がおっしゃったようにサポートをしていただけるICT支援員がいますと、教職員も不安なく取り組めると思います。学校教育課としましても、ICT支援員の配置につきましてはご支援をいただきたいと考えています。

また、学校訪問などをした際に、管理職と意見交換をしますと端末の活用については受け身の段階ではなく、必需品であり積極的に活用しなければならないと捉えている校長が多いと感じています。ベテラン教員を中心に活用を推進していきたいというお言葉もいただいていますので、心強く感じているところです。

佐藤市長

パソコンが職場などで普及し始めた時にも、うまく使用できる人とそうでない人との差があったと思います。最初は誰も使用できずに、挑戦的に使用するわけですが、期限があるなど必要に迫られるとできるようになることもあると思います。

伊藤一委員

校長先生はパソコンを活用しながら、学校だよりを作成していると思いますが、各学校によって特色がよく表れていると思います。学校長は自分が学校のトップであるとの意識がありますので、ICT機器の積極的な活用については問題ないと考えています。しかしながら、苦手意識を持っている教職員も当然いると思いますので、サポートをしていくことが重要だと考えています。特に苦手意識を持つ教職員には、導入の段階で、うまく使用できるのだと成功体験をさせることが大事であり、逆に導入部でつまづいてしまいますと、さらに苦手意識を持ってしまうと思いますので、手厚くフォローしていく必要があると思います。

清島委員

教育長から先ほどICT支援員についての話がありましたが、端末の活用の仕方だけではなく、使用していく中で故障の発生や、機械の予測していない操作を子ども達がすることで、随時メンテナンスの必要性や費用が発生することも予想されます。予備機の用意もあると思いますが、同時に複数の故障などが発生する場合がありますので、ICT支援員がいますと円滑に対応ができるのではないかと考えています。

佐藤市長 端末はリースなのでしょうか。

学校管理課長 買い取りとなっています。教職員用と予備機分それぞれで1, 500台の端末を用意しており、端末は落としても壊れない、耐久性の高いものとなっています。

佐藤市長 意見は尽きないところですが、そろそろ時間となりましたので、意見交換を終了したいと思います。

**(4) その他**

佐藤市長 次に「その他」になりますが、教育委員会の皆様から何かございますか。

(特になし)

佐藤市長 それでは、進行を事務局に戻します。それでは、時間となりましたので進行を事務局に戻します。

**(5) 閉会**

青木教育次長 市長、ありがとうございました。  
以上で、令和2年度第1回宇都宮市総合教育会議を閉会いたします。  
ありがとうございました。